

# 第②回 忠和地区の水防災を考える ワークショップ

## 第2回 忠和地区の水防災を考えるワークショップを開催しました

- ◆日時：平成24年12月9日(日) 13:30~15:30
- ◆場所：旭川市忠和地区センター
- ◆概要：今回は、第1回ワークショップで出された意見を共有し、実際に地域を見るタウンウォッチングを行う予定でしたが、前夜からの大雪による交通障害のため急遽、タウンウォッチングを取り止め、会場で浸水深やハザードマップの浸水区域に関するレクチャーを受け、避難経路の問題点や防災力向上に関する意見交換を行いました。
- ◆参加者：46名（地域住民38名、共催等機関8名）

### 第2回 ワークショップ メニュー

1. 開会
2. 本日のメニュー説明
  - (1) 第1回ワークショップのまとめ
  - (2) タウンウォッチングについて
3. タウンウォッチング(バス移動) (中止)
4. ワークショップ
  - (1) タウンウォッチングの結果発表 (中止)
  - (2) まるごとまちごとハザードマップの取組について
  - (3) 防災力向上に向けた意見交換
5. 閉会挨拶
6. 閉会



## 第1回ワークショップのまとめ

### 第1回ワークショップのまとめ

#### ■ワークショップが目指すもの

地域防災力の向上(減災)のための取組を考え、今以上に地域防災力を向上していく。

#### ■水災害、水防災に関する問題点等の共有

- 1) 地域の土地利用の変遷
- 2) 水災時に危険な場所
  - \* 浸水被害の発生形態(外水氾濫、内水氾濫)
- 3) 水災害への備え、水災時の行動
  - \* 水災時の情報収集
  - \* まるごとまちごとハザードマップの事例紹介
- 4) まるごとまちごとハザードマップで防災意識を啓蒙

今回のワークショップに入る前に、第1回ワークショップで共有した内容を再確認しました。また、皆さんが楽しみにしていたタウンウォッチングが大雪で中止となったため、タウンウォッチングの際に説明を予定していたハザードマップで着色されている浸水想定区域の設定方法について説明がありました。

\* 浸水想定区域は旭川開発建設部のホームページでご覧いただけます。

<http://www.as.hkd.mlit.go.jp/chisui/simurate/>



## まるごとまちごとハザードマップの取組

第1回ワークショップで紹介された「まるごとまちごとハザードマップ」を忠和地区で取組む時に、「避難所誘導表示板」の設置が考えられる避難経路や避難時の問題点等をグループ討議で話し合いました。その後、グループ討議での意見をグループ代表者が発表し、意見を共有しました。

グループ討議には、忠和地区防災委員会が平成23年に作成した「忠和地区防災マップ」と「旭川市洪水ハザードマップ」を重ねて見るために、透明シートに印刷した旭川市洪水ハザードマップが用意され、地域のほとんどが浸水区域に位置している忠和地区の水防災や避難の難しさを改めて実感しながらのグループ討議となりました。





## ■ 発 表 意 見 ■

### ※避難情報と避難行動に関する意見

- ・時間的余裕を持った避難勧告等の発表が必要
- ・避難準備情報で避難する用意をする

### ※避難に関する意見

- ・東西に広い地域なのでどちらに避難するか迷う
- ・町内会毎に避難する避難所を決めておくのと良い
- ・東海大学の坂は避難時要援護者には無理
- ・避難経路が水没することがあるので早めの避難が必要となる
- ・内水による避難も考えた町内会の取組が必要
- ・バス避難の実効性を高める取組が必要

### ◆まるごとまちごとハザードマップの実施◆



グループ発表者からの発表後、旭川開発建設部から避難所誘導表示板と避難所表示板のサンプルが示されました。

また、今日の意見を参考にして旭川市と旭川開発建設部が協力しあい、忠和地区で「まるごとまちごとハザードマップ」の実施に向けた取組みにかかる事が伝えられました。

来年の春頃には忠和地区の何処かで避難所誘導表示板が見られる予定です。

## 防災力向上に向けた意見交換

意見交換に先立ち、旭川市から『洪水時における災害時要援護者の避難支援対策について～バスによる避難支援～』に関する説明があり、グループ討議で「①住民の皆さんが取るべき行動は？」「②地域で取り組むべきことは？」を話し合い、各グループから発表を行いました。



## ■ 発 表 意 見 ■

### ①住民の皆さんが取るべき行動は？

- ・避難準備情報等が全ての住民に伝達できるかが課題
- ・町内会防災組織の有無により対応に違いが出る
- ・個々が避難のための準備や防災に取り組むことが必要
- ・自分で行動することはできるが、知人等の助けが必要な人も居る
- ・避難時に持ち出すものをまとめておく

### ②地域で取り組むべきことは？

- ・バスによる避難支援を活用できる町内会の体制づくりが必要
- ・バスによる避難支援の認知度が低いので町内会員への周知が必要
- ・要援護者を把握する取組が必要で、町内会が活動しやすくなるような行政サイドの支援、情報提供が必要

『バスによる避難支援』を実効性があるものにするため、地域として取り組む必要があることを共有することができました。

◆ 閉会挨拶 忠和地区市民委員会 佐々木会長から、ワークショップによって防災に関する知識が広がり防災力が向上したことについて感謝の意が述べられ、拍手で閉会しました。



### ご意見・お問い合わせ先

旭川開発建設部 旭川河川事務所 計画課  
〒079-8411 旭川市永山1条21丁目  
電話 0166-48-2131 FAX 0166-47-7075